

研究

佐伯市戦後五十年史(二四)

—昭和四十年代の—

社会・文化・スポーツ—

矢野 彌生

(会員 佐伯市中山区)

〈前号〉

二三 池田市政と産業・都市基盤の整備(続)

(八) 下水道事業に着手

二四 昭和四十年代の社会・文化・スポーツ

(一) 労働問題

昭和四十年代 (佐伯市の労働問題) 昭和四十年代の

の労働問題 前半は我が国の経済の高度成長のピーク

の時期であり、後半は石油危機を境に低成長期に入ると

いう時代であった。昭和四十八年(一九七三)十月一九

日には政府は石油ショック対策のため紙使用節約運動の

推進を決定し、市民生活ではトイレットペーパーの
ニックが起ったのである。

このような波らん¹に富んだ昭和四十年代、佐伯市を中
心に労働問題の一端を若干の資料¹によって紹介したい。

○昭和四十年(一九六五)

▽県労評の援農隊 県労評は、農村の人手不足が伝
えられるおりから、労農提携の具体的手段として援
農隊を組織した。

佐伯市では十月二十四日・組合員六十四人が木立地
区の稲刈りや雑穀などの奉仕を行なった。

○昭和四十一年(一九六六)

▽二平合板労組臨時大会(春闘要求賃上げ七、〇〇
〇円)(二月十三日)

▽佐伯造船分会 賃上げ・時間短縮で時間外・休日
出勤・出張拒否闘争に入り、四月一日以後四月二十
二日まで重点部門(クレイン・ガス等)でスト実施。

▽日本酸素労組佐伯分会 賃上げ「七、三〇〇円」
で時間外・宿日直拒否闘争に入り、四月十一日以後
四月二十七日まで時限又は全面スト、五月九日三、
六六〇円で妥結。

▽日本セメント労組佐伯支部 賃上げ「六、〇〇〇円」で二十四時間スト（四月十八日）・以後四月二十八日まで断続スト。五月十二日二、九八〇円で妥結。

▽佐伯地区労働対策協議会発足（五月二十七日）。

二平合板労組第一六回定期大会（委員長 池田博）

（六月五日）

▽臼杵鉄工所の三労組（臼杵鉄工所・臼杵佐伯造船所・臼杵福岡工場の各労組）は、夏季一時金で地労委へあつせん申請（七月一八日いづれも自主解決）。

▽佐伯地区勤労者ソフトボール大会（七月三日）。

佐伯地区婦人労働講座（佐伯労政主催 四〇名）

（八月十八日）。

▽佐伯地区労第一七回定期大会（会長 後藤 力）

（八月二十八日）。

▽県労評主催「原子力発電所について」講演会・建設話の持ち上がっている蒲江町で開催。組合員・地元民など四〇名参加。（八月二十八日）

▽興国人絹バルブ佐伯労組第五回定期大会（委員長

河野信夫）（十月二日）

▽佐伯地区夜間労働学校（一〇日まで、佐伯労政・佐伯地区労・佐伯地区労研共催。労使・一般市民二〇七名）（十一月九日）。

▽第一回佐伯地区労使懇談会（十一月十一日）。

佐伯造船所分会、年末一時金で倉庫係スト（十一月二十五日）二八〇三〇日マーキン一四名スト、十二月一日・二日・三日全面スト、十二月七日妥結。

▽臼杵鉄鋼労組と全造船機械佐伯分会の年末一時金統一交渉妥結（五六、〇〇〇円）（十二月七日）。

○昭和四十二年（一九六七）

▽みつわ真珠霞ヶ浦養殖場閉鎖 みつわ真珠工業株式会社（本社東京都）は、昭和二十六年（一九五二）

佐伯市霞ヶ浦に真珠養殖場を開設したところが佐伯湾の汚濁が著しく、また業界の不振等から、存続は不可能となり、企業閉鎖を決定、労組（組合員四十三人）もこれを認め、三月二十日閉鎖した。

▽佐伯造船所の夏季手当争議 全造船機械労組佐伯分会（組合員四百四十人）は、臼杵鉄工資本傘下三社の共闘で、夏季手当八万七千円を要求した。これに対し、会社は四万三千八百円の回答を行なった。

組合員はこれを拒否し、七月十一、十三日の三日間の全面ストを実施した。これに対し、会社はロックアウトで応じたが、二十四日一時金六万四千五百円で約一か月にわたる争議が解決した。

○昭和四十三年（一九六八）

▽佐伯地区労働問題講習会（佐伯労政・佐伯商工会議所共催・婦人経営者五〇名）（二月十五日）。

▽佐伯地区労働問題懇話会（佐伯労政主催）（二月二十日）。

▽佐伯地区労使懇話会（佐伯労政主催・労使代表一七名）（三月八日）。

▽日本酸素労組佐伯分会、賃上げで四八時間スト（二四日四八時間スト、三〇日二四時間スト、五月七日五、八六〇円で妥結）。

▽佐伯学園教職員組合結成（委員長 田島幹雄）（五月一日）。

▽佐伯地区中小企業勤労者ソフトボール大会（海上自衛隊グラウンド・二二チーム）（六月二三日）。

▽日本セメント労組佐伯支部、夏季一時金で二四時間スト（二九日九二、〇〇〇円で妥結）（六月二五

日）。

▽佐伯地区・夜間労働学校（二五日まで、佐伯労政佐伯地区労共催・労組員延二三名）（七月二四日）

▽佐伯学園教職員組合、夏季一時金争議で地区労委にあっせん申請。（八月一〇日、自主解決）。

▽佐伯地区中小企業勤労者ソフトボール大会（佐伯鶴城グラウンド、一五チーム）（九月一日）。

▽二平合板労組定期大会（九月一日）。

▽佐伯地区同盟定期大会（九月一日）。

▽佐伯地区・夜間労働学校（一〇月二三日も開校・佐伯労政・佐伯商工会議所共催、使用者延一九八名）（九月一日）。

▽佐伯地区・労働問題講習会（佐伯労政主催・労使六八名）（九月二六日）。

▽佐伯地区労第一九回定期大会（委員長 木許 晃）（一〇月二三日）。

▽佐伯学園教職組、団交促進・年末一時金で地労委にあっせん申請（十一月二七日解決）（十一月二〇日）。

▽二平合板労組、年末一時金で二四時間スト（三日
妥結）（十二月二日）。

▽佐伯学園職組、年末一時金で二時間スト（十二月
十一日）。

▽全造船機械佐伯造船分会、年末一時金で地労委に
あつせん申請。（一九日第一回あつせん申請。二四
・二五日両日事情聴取、一月六日九三、五〇〇円で
自主解決）（十二月一八日）。

▽全造船機械佐伯造船分会、大分地裁に年末一時金
支払い請求の仮処分申請。三〇日差押執行。（十二
月二七日）。

○昭和四十四年（一九六九）

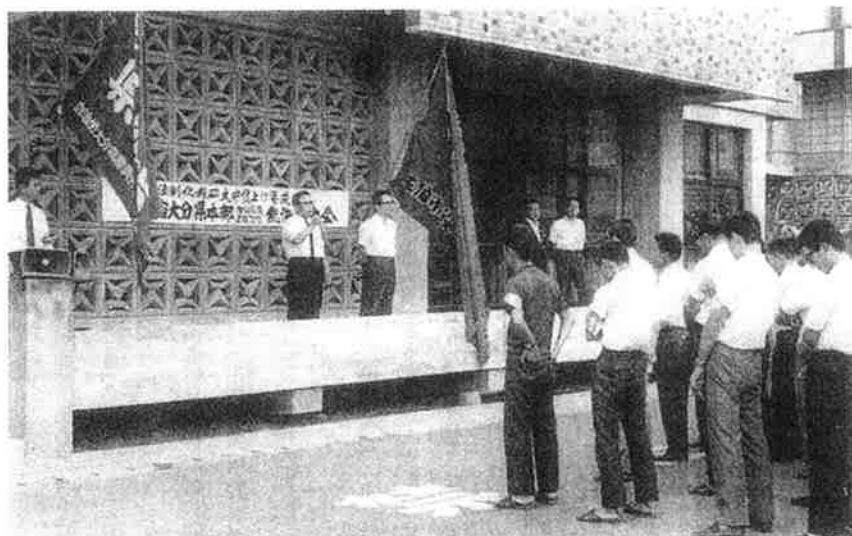
佐伯学園、年末一時金で地労委にあつせん申請（一
月一六日解決）（二月一五日）。

▽県労評、佐伯市で移動労働相談開催（二月二五日）

▽佐伯市、夜間労働学校（佐伯労政、佐伯地区労共
催、労組員六六名）（二月二五日）。

▽佐伯地区労問題懇話会（三月六日）。

▽日本セメント労組佐伯支部、賃上げなどで二四時
間スト（四月八日）。



定年制法案紛碎決起大会（昭和44年）（『佐伯市職労50年の歩み』より引用）

▽臼杵鉄工労組・同佐伯造船労組、賃上げで二四時間全面スト（七、八日四八時間スト、一四日七、〇〇〇円で妥結）（五月二日）。

▽佐伯地区労使親善ソフトボール大会（佐伯高校グランドほか二〇チーム）（六月一日）。

▽仲谷特殊紡績労組大分県支部結成（委員長 山本正彦）（六月二〇日）。

▽日本セメント労組佐伯支部定期大会（支部長 大鶴文雄）（九月一四日）。

▽二平合板労組定期大会（委員長 池田博）（九月一四日）。

▽興人労連佐伯労組定期大会（委員長 末松康範）（九月一七日）。

▽佐伯学園佐伯高校管理部長、平川武士校長代行兼教頭を懲戒解雇、紛争再燃（九月一九日）。

▽佐伯地区労働学校開催（佐伯労政事務所主催・佐伯商工会議所、経営者六五名）（十月二二日）。

▽佐伯地区労第二〇回定期大会。（十月二六日）。

▽佐伯学園の生徒会、平川校長代行の懲戒解雇撤回・不足職員の補充等を要求して三日間登校拒否。

（十一月五日）。

▽佐伯学園の生徒会、同学園理事長の退陣を要求し二日間（午前中）市内デモと座り込み。（十一月七日）。

▽佐伯学園の紛争解決。（平川校長代行の懲戒解雇問題・職員補充要求・理事長の退陣要求等）（十一月三日）。

▽佐伯地区労懇談会。（十二月四日）。

○昭和四十五年（一九七〇）

▽佐伯地区労働問題懇談会。（三月二二日）。

▽佐伯地区事例研究会（佐伯労政主催・鉄工業協同組合員）（三月一八日）。

▽佐伯学園教組、管理部長退陣などを要求して一斉授業放棄。（五月一九日）。

▽佐伯学園教組、団交促進で地労委にあっせん申請。（六月二日解決）（五月二九日）。

▽佐伯学園教組、賃上げ・夏季手当で地労委にあっせん申請。（七月七日打ち切り）（六月二七日）。

▽佐伯地区労使親善ソフトボール大会。（七月一日）。

佐伯学園教組、賃上げで地労委にあつせん申請。(九月四日自主解決)。(八月二十五日)。

▽佐伯学園労組の不当解雇撤回総決起集会(佐伯市大手公園二五〇名)(九月三〇日)。

佐伯地区・事例研究会(佐伯労政主催・労組三役)。(十月一九日)。

▽佐伯市職労第二六回定期大会。(十月二四日)。

▽佐伯木材協、労使親善ソフトボール大会。(十一月一日)。

▽佐伯地区・事例研究会(佐伯労政主催・同地区労務研究会員)。(十二月二日)。

○昭和四十六年(一九七二)

▽佐伯地区同盟第五回定期大会。(二月二五日)。

▽佐伯地区春闘会議総会。(二月二〇日)。

▽佐伯病院労組結成(組合長 松本隆)。(二月二六日)。

▽佐伯地区労働問題懇話会。(二月三日)。

▽佐伯合板労組結成(委員長 早坂忠根)。(三月十一日)。

▽佐伯地区労使懇談会(同地区木材協同組合労使)

(三月一七日)

▽大和冷機工業労組結成(委員長 井町征三郎)。(七月一〇日)。

(七月一〇日)。

▽大和冷機工業労使教育集会(佐伯労政主催、八名)。(八月七日)。

▽仲谷特殊紡績労使労働教育集会(佐伯労政主催、一五名)。(八月二八日)。

▽日本セメント労組佐伯支部第八九回定期大会。(九月十一日)。

▽二平合板第二二回定期大会。(九月二二日)。

▽興人労組佐伯支部第二回定期大会。(九月一六日)。

▽興国物産運送労組第一七回定期大会。(九月一六日)。

▽大和冷機工業(株)労組、解雇予告の撤回で地労委にあつせん申請。(九・二二打切り)。(九月一六日)

▽日本セメント労組佐伯支部第八九回定期大会。(九月二六日)。

▽佐伯地区中小企業問題講習会(佐伯労政主催、二日間、経営者一三四名)(九月二日)。

▽佐伯地区労第二回定期大会(十月一七日)。

▽佐伯地区労働者福祉協議会結成大会。(十月三日)
○昭和四十七年(一九七二)

▽佐伯市職員労組、機構改革反対問題で六月七日スト、座り込み(今議会で改革案見送り)。(三月七日)。

▽佐伯地区労問題懇話会。(三月一六日)。

▽佐伯地区労問題懇談会(三月二七日)。

▽佐伯地区労、単組代表者会議で彦島外材基地問題を討議、反対を決定。(三月二八日)。

▽佐伯学園の四教官懲戒解雇「地位保全仮処分申請」事件で、大分地裁は解雇無効の判決を下す。(四月二八日)。

▽西田病院労組結成(委員長 平井恒彦)。(五月一八日)。

▽佐伯地区労代表者会議、佐伯市長に対し、「一人一要求運動の集計による要求書提出。(六月一六日)。

▽佐伯地区同盟定期大会。(六月三日)。

▽佐伯地区春季労使親善ソフトボール大会。(七月二日)。

▽興人労組佐伯支部第三回定期大会。(九月二〇日)。



メーデー(昭和48年)、『佐伯市職労50年の歩み』より引用)

▽城南タクシー労組結成(委員長 雲切恒久)。(一月七日)。

▽佐伯地区中小企業労働問題講習会(二五日まで佐伯労政主催、経営者)。(十月二四日)。

○昭和四十八年(一九七三)

▽佐伯地区労、第二回「一人二要求運動」実施。(一月一六日)。

▽佐伯市勤労青少年ホーム完成。(二月二六日)。

▽労組佐伯支部長の解雇に伴う地位確認請求事件に対し「解雇無効・未払い賃金役七三四万円を支払え」と判決。会社側はこの判決を不服として三月二〇日、福岡高裁に控訴。(三月一九日)。

▽佐伯地区労、第二回一人二要求運動。要求書(四七項目を市長に提出)。(五月一二日回答)。(四月一日)。

▽二平合板職員労組結成(委員長 大地興一)。(四月一五日)。

▽城南タクシー労組、賃上げで一〇時間スト(以後断続スト、五月五日二三、〇〇〇円で妥結)。(四月一七日)。

▽佐伯学園教職組、賃上げで地労委にあっせん申請。(二〇日打ち切り)。(六月十一日)。

▽全自動佐伯地区自交労組結成(委員長吉原明夫)。(六月一九日)。

▽佐伯タクシー労組結成(委員長谷口忠雄)。(六月二〇日)。

▽二平合板労組定期大会(九月四日)。

▽日本セメント労組佐伯支部定期大会。(九月一七日)。

▽興人労組佐伯支部定期大会。(九月二〇日)。

▽佐伯地区労定期大会。(一〇月一四日)。

▽佐伯地区中小企業労使懇談会(佐伯労政事業所主催)。(十月二五日)。

▽佐伯地区中小企業労働問題講習会(佐伯労政主催、経営者、労務担当者六五名)。(十月二六日)。

○昭和四十九年(一九七四)

▽佐伯地区労使懇談会(労働福祉について意見交換)。(一月二日)。

▽佐伯地区労、物価問題に関する要求書(六項目)を池田市長に提出。(二月九日市長同要求に回答)。

(二月三十一日)。

▽佐伯地区中小企業労働問題講習会(佐伯労政主催、経営者五七名)。(二月二十八日)。

▽佐伯地区労と金融機関・商工会議所との懇談会。

(三月一日)。

▽佐伯地区労働懇談会。(三月七日)。

▽前田布帛(株)佐伯工場労働組結成(委員長中鶴正一)。(四月六日)。

▽前田布帛労働組、賃上げで地労委あつせん申請。(六月二十五日解決)。(五月二十四日)。

▽前田布帛工業佐伯工場、夏季一時金の団交の席で「即日全員解雇」を通告したが、一三日の団交で全国一般分会員三六名について解雇撤回。(七月二十日)。

▽前田布帛工業佐伯工場、八・九・一〇の三ヵ月工場一時閉鎖につき労使了解、秋の再開時復職などについて団交継続。(八月三〇日解決)。(七月二十六日)。

▽前田布帛工業佐伯工場、織維産業の不況で工場閉鎖(再開に努力を約束)。(八月三十一日)。

▽日本セメント労働組佐伯支部第九三回定期大会。(九

月十四日)。

▽興人労働組佐伯支部第五回定期大会。(九月十八日)。

▽全造船機械佐伯造船分会第一三回定期大会。(九月二十二日)。

▽二平合板労働組第二四回定期大会。(九月二十三日)。

▽佐伯商工会議所、「市職員のペア高すぎる、地元企業のこととも考えろ」と佐伯市長と市議会議長に要望。(一〇月一日)。

▽佐伯地区労働第二五回定期大会(委員長木許晃)。(一〇月二〇日)。

▽佐伯地区中小企業労働問題講習会(佐伯労政主催、経営者、労務担当四五名)。(一〇月二十九日)。

▽佐伯地区進出企業対策行政連絡会(佐伯労政主催、一三名)。(十一月九日)。

▽佐伯地区秋季労使親善ソフトボール大会(一五チーム参加)。(十一月二十三日)。

▽佐伯地区労働懇談会(進出企業不況対策について三〇名)。(十一月二十七日)。

以上が佐伯市の昭和四十年代の労働運動の概要である。多くの労働争議をくりかえし、企業の利潤追求とからみ

合いながら、労働者は労働組合を結成し、少しでも生活の向上を求めて戦ったのである。

〔注〕

(1)

『大分県労働運動史年表(自昭和40～50)』
(大分県商工労働部労政課 昭和五十三年)・『佐伯市史』(佐伯市 昭和四十九年)から引用した。なお、昭和二十年～昭和三十九年の労働問題については『佐伯市史』を参照されたい。

(続く)



会員麻生英臣氏提供 「浅海井海水浴場」古写真2点